

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 都賀 第2教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<p>プログラム内容が充実している。 ※保護者や児童からも関心を持ってもらえている 支援室のスペースを有効に活用出来ている。 非常時というのが児童の痼疾等である場合、個別支援室を活用したクールダウンなどの対応を行っています。</p>	<p>外出プログラムにおいて行先や、季節ごとに実施する内容を工夫している。 壁面制作等で支援室内の壁を有効的に活用している。 体調不良時やクールダウンが必要と判断した際に、個別支援室を使用することを職員間で決めている。</p>	<p>今まで実施したプログラムにおいて「楽しかった内容」「また実施して欲しいプログラム」についてアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえプログラムの検討を実施します。</p>
<p>利用児童の通学・通園先が限定的な為、対応方法が統一することが出来ている。</p>	<p>机や椅子を学校形式で配置し、名前シールで児童1人ひとりの場所を決めている。 はじまりの会や帰りの会の前に手話（ハンドサイン）を取り入れている。</p>	<p>通学先と連携を図り、支援方法等を共有し、児童への対応を統一する。</p>
<p>個別支援計画の作成時に保護者様との支援内容について共有を行えている。 また、帰りの送迎時等でも支援内容について共有を行っている。</p>	<p>モニタリング時に、課題やニーズについてヒアリングが実施できている。 日々の様子を送迎時に共有ができています。</p>	<p>活動時の様子をより伝えられるように、LINEやHUGを活用し写真での共有を増やしていく。</p>

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
<p>業務内容に偏りが出ている。 基準としては足りているが、より質の良い支援を目指すにはもう少し職員配置が欲しい。 外部での研修や学びの機会について、支援時間で実施される場合もある為、その際の職員の人員確保が難しいと感じる時もあります。</p>	<p>現状の職員で実施できる業務分担や支援方法について話し合いが出来ていない。</p>	<p>支援中の職員の配置や児童の座席配置、グループ分け等を実施していく。</p>
<p>・個別支援計画に沿って支援が十分に行えていない。 ・家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行えていない。 ・保護者様からご返信がいただけない際に対応に悩む部分もあるが、改めて確認のご連絡を行うことで連絡を取り合えている。</p>	<p>個別支援計画の内容が十分に共有されておらず、支援内容に相違が生じていることがある。 児童の様子を共有するMTGで、活動時の様子を共有することが出来ているが、課題に対する支援について話し合うことができていない。</p>	<p>保護者からの相談内容を職員間で共有し、児童の特徴に沿った支援方法を検討する。検討した内容を保護者にも共有し、日々の支援での様子を適宜報告する。 個別支援計画の内容の共有を定期的実施し、次にどのように支援を実施していくか、MTGで検討していく。</p>
<p>教室でのご様子をお伝えすることは出来ているが、ご家族様の必要な助言・支援を行えているかについては、自分自身の知識不足を感じます。 事業ポリシーについて内容の理解は出来ているが現場で活かしきれていない。</p>	<p>職員間で悩みや疑問について、確認する機会が十分に確保できていない。</p>	<p>職員間で経験したことがない事例については、全体で検討し、対応手段を明確にする。 マニュアルを研修のみにせず、プログラムに取り入れたり、職員間で定期的実施する。</p>